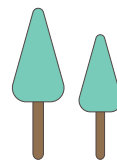




マラソンでつなぐ チャリティと環境教育



2023年3月5日、「東京マラソン2023」が開催されました。第16回となる今回の大会では、38,000人のランナーが参加。JEEFも寄付先団体として、この大会に関わりました。マラソンとJEEFの関係や、今回の大会についてレポートします。

JEEFとマラソンの これまで

マラソンとチャリティと聞くと、すぐに結びつかない方もいらっしゃると思いますが、「チャリティ文化を定着させること」を目的として、一定額を応援したい団体に寄付すると、チャリティランナーとして、マラソンを走ることができるシステムがあります。寄付する団体は、事前審査によって選ばれ、「寄付先団体」と呼ばれます。実は、東京マラソン2023はJEEFが寄付先団体として関わった最初のマラソンではありません。2016年と2017年開催の大阪

マラソンでは、寄付先団体に選出していただき、いただいた寄付金を活用して、がん患者の家族や小児がんを克服した子どものためのサマーキャンプ、公害とSDGsについて考えるユース向けスタディ・ツアー、障がいのある方へのGEMSワークショップを大阪府内で実施しました。

大会やチャリティ企画を通して、マラソンが持つ力や、ランナーの方々の熱意は、JEEFが目指す「誰ひとり取り残さない環境教育」を推進する心強いエネルギーになっています。

東京マラソン2023

2023年、JEEFは寄付先団体として大会に関わりました。JEEFの活動に共感して58名のチャリティランナーが国内外から集まり、わたしたちの想いを背負って走っていただきました。お一人おひとりのランナーの方と対面でお会いし、熱い想いを直に感じるこ

その他の寄付金事業 「誰ひとり取り残さない環境教育」を 提供するために

森 de リトリート 特別編

キープ協会（山梨県）との協働で、森で心身を整える・リラックする時間を提供する「森 de リトリート（特別編）」を2022年11月及び2023年4月に1泊2日で開催しました。清里の美しい森を五感で感じたり、森と健康の関係を考えたり、夜の森の中で感覚を研ぎ澄ませたりと様々な活動を行いました。

裸足で森歩きの様子





© 東京マラソン財団

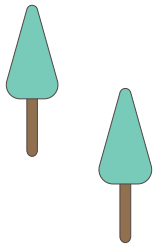
東京マラソン2023の様子。様々な国から参加していただきました。



J E E Fからも職員が東京マラソンを走りました。国内事業グループ所属の加藤有美恵さんです。大会への出場が決まり、昨年の9月から日々練習を重ね、無事に完走しました。



まさか私の人生でフルマラソンを走ることになるとは考えていませんでした。人生の中で10kmしか走ったことがないので、覚悟して臨みました。走る前はそわそわしていましたが、走り出したら楽しかったです。無事完走でき、感無量です。



寄付金を利用した事業

寄付金を利用し、身体的理由や経済的・地域的な理由などで、これまでJ E E Fのプログラムに参加する機会を得られなかった方々に向け、生活困窮家庭やひとり親家庭の子どもたちを対象とした自然体験キャンプ、全国の病気と闘う子ども達のもとに探究的な学びを届ける「探究ワークショップピキヤラバン」などの事業を始めています。

また、今後も全国の自然学校などとコラボしながら、より多くの方々に自然とふれあい、人とながり、サステナブルな未来について考えられるような企画を実施していきます！

病気と闘う子やそのきょうだいと出張ワークショップ



子ども食堂 味噌作り

千葉県木更津市で活動している「子ども食堂馬来田ぶらす」に関わっている方を対象に、地域の食材（大豆や米麴）を使って味噌を手作りするイベントを2023年4月に実施しました。味噌作りを体験したことがない方も多く、参加者の方からは、「温かい大豆を手でつぶす感触が楽しかった」や「待望の味噌作りの経験ができてよかった」とのお声をいただきました。

茹でた温かい大豆を手でつぶす様子

